

別紙 2

小・中学校の特別支援学級に在籍する重複障害のある子供の教育に関する調査 調査記入方法

1. 調査対象：特別支援学級に重複障害のある子供が在籍する小・中学校

2. 調査方法：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所のアンケートサーバーによる。

1) 回答のための資料を先に作成してください。作成には、**40分程度**かかると予想されますが学校の実態等により差があると思われます。回答のための資料を作成した後、ウェブで記入するだけであれば、約10分で記入できます。

2) 調査の回答方法について（以下の手順に従って実施して下さい。）

- ①まず、送付いたしました別紙3を用いて、回答のための資料を先に作成して下さい。
- ②回答の準備ができましたら、インターネットエクスプローラーなどインターネットブラウザを起動します。
- ③本研究所の以下のwebサイトにアクセス（本研究所webサイト <https://www.nise.go.jp/>の「お知らせ」からURLをクリックするか、下記のURLを打ち込んでください。）して、「小・中学校の特別支援学級に在籍する重複障害のある子供の教育に関する調査」を開きます。
- <https://www.nise.go.jp/sc/chofuku01/>**
- ユーザー名：chofuku**
- パスワード：chofuku2019**
- ④ウェブ上の回答欄に回答を記入します。
- *いったん記入を開始すると、途中で中止したり保存したりすることはできません。
- ⑤調査の最後にある「次へ」ボタンをクリックします。
- *赤い「*」と書いている項目を記入していない場合エラーが出ますので、記入をお願いします。
- ⑥確認後、最下部の「投稿する」ボタンをクリックすると、記入が終了します。

3) 回答については、校長先生に学校としての意見をもとに回答資料を作成していただき、最後にアンケートサーバーに一括ご記入下さい。なお、アンケートサーバーへのご記入は、各学校において、適切な方を指定し、ご記入いただいて構いません。

4) アンケートサーバーが開かない場合は、校内のPC操作に堪能な教員にご確認ください。それでも接続が難しい場合は、別紙3に回答をご記入の上、以下のFAX番号までご送信下さい。

FAX：046-839-6907 研修事業部 小澤 至賢 宛

5) その他、本調査に関してご不明な点、ご質問等がございましたら、以下までご連絡下さい。

国立特別支援教育総合研究所 重複班

小澤 至賢 TEL：046-839-6880 E-mail：ozawa@nise.go.jp

3. 入力〆切り：令和2年1月17日（金）とさせていただきます。

以上、よろしくお願いいたします。

別紙 3

小・中学校の特別支援学級に在籍する重複障害のある子供の教育に関する調査

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
重複障害教育研究班

はじめにお読みください

1. 本調査の目的

文部科学省が発表した平成 30 年の特別支援教育資料において、全国の小・中学校の特別支援学級には、重複障害のある（学校教育法施行令第 22 条の 3 において規定している程度の障害を複数併せ有する）子供が、小学校で 776 名、中学校で 164 名在籍していることが分かっています。

本調査は、小・中学校の特別支援学級に在籍する重複障害のある子供の教育の充実に向け、課題となっていること、それに対する工夫点を把握することを目的としています。

また、調査結果をもとに特徴ある取組を行っている学校を後日訪問し、詳細な情報をお聞きしたいと考えております。

そして、調査結果から、課題点、それに対する工夫点を整理した上で、重複障害のある子供が在籍する特別支援学級の担任にとって役立つ資料の作成を行っていきたいと考えております。

2. 本調査の回答者

本調査は、重複障害のある子供が在籍する特別支援学級のある全国の小・中学校を対象としています。

回答については、校長先生に学校としての意見をもとに回答資料を作成していただき、最後にアンケートサーバーに一括ご記入下さい。なお、アンケートサーバーへのご記入は、各学校において、適切な方を指定し、ご記入いただいて構いません。

なお、印象をお聞きする設問には、校長先生の印象をご回答ください。

3. 調査結果の処理及び公表について

本調査により得られた情報は、厳重に保管し、研究の目的以外には使用しません。ご回答いただいた情報は、数値化等の処理を行い、自治体名や学校名は匿名とするため、個人情報が漏れることは一切ありません。

4. 同意について

調査への協力は任意でございます。

本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただける場合は、アンケートサーバーから回答をお願いいたします。アンケートの回答をもって、本調査へのご協力に同意いただいたものとさせていただきます。なお、ご回答いただけない場合でも不利益となることはございません。

5. 回答の締め切り

令和 2 年 1 月 17 日（金）までにアンケートサーバーに入力してご回答ください。

6. 問い合わせ先

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

〒235-8585 神奈川県横須賀市野比 5-1-1

研修事業部 主任研究員 小澤 至賢（本調査担当）

e-mail ozawa@nise.go.jp

TEL 046-839-6880

調査記入方法について

1. 回答のための資料を先に作成してください。作成には、40分程度かかると予想されますが学校の実態等により差があると思われます。回答のための資料を作成した後、ウェブで記入するだけであれば、約 10 分で記入できます。
2. 調査の回答方法について（以下の手順に従って実施して下さい。）
 - （1）まず、本紙を用い、回答のための資料を先に作成してください。
 - （2）回答の準備ができましたら、インターネットエクスプローラーなどインターネットブラウザを起動します。
 - （3）本研究所の以下の web サイトにアクセス（本研究所 web サイト <https://www.nise.go.jp/> の「お知らせ」から URL をクリックするか、下記の URL を打ち込んでください。）して、「小・中学校の特別支援学級に在籍する重複障害のある子供の教育に関する調査」を開きます。

<https://www.nise.go.jp/sc/chofuku01/>
 - （4）調査シートに回答を入力してください。
*いったん入力を開始すると前のページに戻ったり、保存したりすることはできません。
 - （5）入力後、ページの下にある「次へ」ボタンをクリックします。
赤い「」と書いている項目を記入していない場合エラーが出ますので、入力をお願いします。
 - （6）すべての入力が終わった後、最下部の「投稿する」ボタンをクリックすると、入力が終了します。
3. 回答については、最後にアンケートサーバーに一括ご記入下さい。アンケートサーバーへのご記入は、各学校において、適切な方を指定し、ご記入いただいて構いません。
4. アンケートサーバーが開かない場合は、P C 操作に堪能な方にご確認ください。それでも接続が難しい場合は、本紙に回答をご記入の上、以下の FAX 番号までご送信下さい。

研修事業部 主任研究員 小澤 至賢
FAX 046-839-6907
e-mail ozawa@nise.go.jp

小・中学校の特別支援学級に在籍する重複障害のある子供の教育に関する調査

(令和元年5月1日現在でご回答ください)

*回答については、校長先生に学校としての意見をもとに回答資料を作成していただき、最後にアンケートサーバーに一括ご記入下さい。なお、アンケートサーバーへのご記入は、各学校において、適切な方を指定し、ご記入いただいて構いません。

I 基本情報

1. 学校の設置されている都道府県名をご選択（記入）ください。

()

2. 学校名をご記入ください。(記入例：〇〇市立〇〇小学校)

()

※「重複障害のある子供」とは、「学校教育法施行令第22条の3において規定している程度の障害を複数併せ有する子供」のことです。このことについて、不明な点がある場合は、教育委員会へお問い合わせいただきたく存じます。

以下の学校教育法施行令第22条の3（特別支援学校の対象となる障害の程度）に該当する程度の障害を2つ以上併せ有する場合

区分	障害の程度
視覚障害者	両眼の視力がおおむね〇・三未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
聴覚障害者	両耳の聴力レベルがおおむね六〇デシベル以上のもののうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
知的障害者	1 知的発達の遅滞があり、他人との意思疎通が困難で日常生活を営むのに頻繁に援助を必要とする程度のもの 2 知的発達の遅滞の程度が前号に掲げる程度に達しないもののうち、社会生活への適応が著しく困難なもの
肢体不自由者	1 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 2 肢体不自由の状態が前号に掲げる程度に達しないもののうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病弱者	1 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 2 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの

備考

1 視力の測定は、万国式試視力表によるものとし、屈折異常があるものについては、矯正視力によって測定する。

2 聴力の測定は、日本産業規格によるオーディオメータによる。

Ⅱ 小・中学校の特別支援学級に在籍する子供について

(令和元年5月1日現在を基準としてご記入ください。)

※ 記入に際しては、学校基本調査をもとにお答えください。

1. 学校全体の状況について

(1) 貴校の全児童生徒数をご記入ください。() 人

(2) 貴校の教員(教員の内、主幹教諭、指導教諭、教諭、助教諭、講師)数をご記入ください。() 人

2. 特別支援学級について

(1) 貴校の特別支援学級数をご記入ください。

- ① 弱視学級() 学級
- ② 難聴学級() 学級
- ③ 知的障害学級() 学級
- ④ 肢体不自由学級() 学級
- ⑤ 病弱・身体虚弱学級() 学級
- ⑥ 言語障害学級() 学級
- ⑦ 自閉症・情緒障害学級() 学級

(2) 貴校の特別支援学級に在籍している子供の人数をご記入ください。

- ① 弱視学級() 人
- ② 難聴学級() 人
- ③ 知的障害学級() 人
- ④ 肢体不自由学級() 人
- ⑤ 病弱・身体虚弱学級() 人
- ⑥ 言語障害学級() 人
- ⑦ 自閉症・情緒障害学級() 人

(3) 貴校の特別支援学級を担当している教員(教員の内、主幹教諭、指導教諭、教諭、助教諭、講師)数をご記入ください。

- ① 弱視学級() 人
- ② 難聴学級() 人
- ③ 知的障害学級() 人
- ④ 肢体不自由学級() 人
- ⑤ 病弱・身体虚弱学級() 人
- ⑥ 言語障害学級() 人
- ⑦ 自閉症・情緒障害学級() 人

3. 貴校の特別支援学級に在籍している重複障害のある子供の人数をご記入ください。

※「重複障害のある子供」とは、「学校教育法施行令第22条の3において規定している程度の障害を複数併せ有する子供」のことです。

- ① 弱視学級（ ）人
- ② 難聴学級（ ）人
- ③ 知的障害学級（ ）人
- ④ 肢体不自由学級（ ）人
- ⑤ 病弱・身体虚弱学級（ ）人
- ⑥ 言語障害学級（ ）人
- ⑦ 自閉症・情緒障害学級（ ）人

(2) 特別支援学級に在籍する重複障害のある子供の実態把握をする上で工夫していることはどのようなことですか。(複数回答可)

- ① 標準化された検査を活用して実態把握をしている。
- ② 専門職の助言を取り入れて実態把握をしている。
- ③ 段階表等、学校独自の尺度を使用して実態把握をしている。
- ④ 他の教員とも協議をした上で実態把握をしている。
- ⑤ 保護者からの情報をもとにした実態把握をしている。
- ⑥ 関係機関からの情報をもとにした実態把握をしている。
- ⑦ 学習の習得状況をもとにした実態把握をしている。
- ⑧ その他 ()

4. 特別支援学級に在籍する重複障害のある子供の目標設定と評価について

(1) 特別支援学級に在籍する重複障害のある子供に対する各教科等の指導において、指導目標を設定したり、指導内容を決定したり、指導の評価をしたりする上で課題となっていることはどのようなことですか。(複数回答可)

- ① 特に課題はない
- ② 指導目標の設定
- ③ 指導内容の決定
- ④ 子供の学習状況の評価
- ⑤ 指導自体の評価 (教師の指導の評価)
- ⑥ その他 ()

(2) 特別支援学級に在籍する重複障害のある子供の目標設定や評価を行う上で工夫していることはどのようなことですか。(複数回答可)

- ① 標準化された検査の結果を受けて指導目標の設定や学習状況の評価をしている。
- ② 専門職の助言を取り入れて指導目標の設定や評価をしている。
- ③ 段階表等、学校独自の尺度を使用して指導目標の設定や評価をしている。
- ④ 複数の教員で協議して指導目標の設定や評価をしている。
- ⑤ 指導目標の達成状況を評価するために指導方法についても十分協議している。
- ⑥ その他 ()

5. 特別支援学級に在籍する重複障害のある子供の授業について

(1) 特別支援学級に在籍する重複障害のある子供の集団における授業で課題となっていることはどのようなことですか。(複数回答可)

- ① 特に課題はない
- ② 学習グループの編成
- ③ 児童生徒の実態に合った学習内容の決定
- ④ 他の子供と同じ学習活動を展開すること
- ⑤ コミュニケーションをとること
- ⑥ 子供の主体的な行動を引き出し、子供が自らの行動を調整できるようにすること
- ⑦ 子供が興味を持つ教材・教具の準備
- ⑧ その他 ()

(2) 特別支援学級に在籍する重複障害のある子供の集団における授業で工夫していることはどのようなことですか。(複数回答可)

- ① 学習グループの編成の工夫
- ② 児童生徒の実態に合った学習内容の決定の工夫
- ③ 他の子供と同じ学習活動を展開する工夫
- ④ コミュニケーションをとる工夫
- ⑤ 子供の主体的な行動を引き出し、子供が自らの行動を調整できるようにする工夫
- ⑥ 子供が興味を持つ教材・教具の工夫
- ⑦ その他 ()

6. 特別支援学級に在籍する重複障害のある子供の通常の学級での交流及び共同学習

(1) 貴校の特別支援学級に在籍する重複障害のある子供は、通常の学級での交流及び共同学習を実施していますか。

- ① はい
- ② いいえ

(2) (1) で①と答えた方にお聞きします。通常の学級での交流及び共同学習で課題となっていることは何ですか(複数回答可)

- ① 特に課題はない。
- ② 通常の学級における指導内容を重複障害のある子供に合わせることに
- ③ 重複障害のある子供と周囲の子供たちの活動のペースが異なることに
- ④ 保護者の要望と学校が学ばせたいと考えていることが異なることに
- ⑤ 介助や学習の支援者の対応
- ⑥ 特別支援学級の担任と通常の学級の担任との打合せ
- ⑦ 周囲の子供たちとの関係づくり
- ⑧ その他 ()

(3) (1) で①と答えた方にお聞きします。通常の学級での交流及び共同学習で工夫していることは何ですか(複数回答可)

- ① 興味のある教科等や学習活動を選んでいる。
- ② 特別支援学級で学習する内容と通常の学級で学習する内容をリンクさせている。
- ③ 仲の良い友だちと一緒に学べるよう配慮している。
- ④ 子供同士のコミュニケーションややりとりをサポートしている。
- ⑤ 子供が活動しやすい教材・教具を用意して参加している。
- ⑥ 授業の全部ではなく、部分的に取り組んでいる。
- ⑦ その他 ()

7. 特別支援学級に在籍する重複障害のある子供の学校での行事等への参加や対応について

(1) 特別支援学級に在籍する重複障害のある子供の学校での行事等への参加や対応について課題となっている場面はどのような場面ですか。(複数回答可)

- ① 特に課題はない
- ② 避難訓練
- ③ 運動会・体育祭
- ④ 遠足・校外学習
- ⑤ 文化祭・学習発表会
- ⑥ 宿泊を伴う学習
- ⑦ 給食の時間
- ⑧ その他 ()

(2)(1)で①以外に答えた方にお聞きします。具体的な課題についてご記入ください。また、課題への工夫がありましたらご記入ください。(自由記述)

()

Ⅳ 特別支援学級に在籍する重複障害のある子供の教育の充実のための教職員の専門性の担保について

1. 重複障害のある子供の在籍する特別支援学級を担当する教員の専門性について

(1) 貴校の特別支援学級を担当する教員の専門性について、重複障害のある子供の指導について課題となっていることはどのようなことですか。(複数回答可)

- ① 特に課題はない
- ② 重複障害のある子供の在籍する特別支援学級を担当する教員に求められる専門性が十分とは言えないこと
- ③ 重複障害のある子供を担当した経験が少ないこと
- ④ 重複障害のある子供の教育について培われた知識や技術の継承
- ⑤ 研修の機会の少なさ
- ⑥ 教員の専門性を担保するための組織的、計画的な研修計画
- ⑦ 介助業務を担当する職員との連絡調整
- ⑧ 保護者等との連携やコミュニケーション
- ⑨ その他 ()

(2) 貴校の重複障害のある子供の在籍する特別支援学級を担当する教員の専門性の確保について、学校として工夫していることはどのようなことですか。(複数回答可)

- ① 校内での講義形式の研修
- ② O J T形式の研修
- ③ 教育センターでの研修
- ④ 研究会等での研修
- ⑤ 特別支援学校のセンター的機能を活用した研修
- ⑥ 国立特別支援教育総合研究所のインターネット講義配信などを活用した自己研鑽
- ⑦ 国立特別支援教育総合研究所での専門研修や協議会への参加
- ⑧ その他 ()

2. 貴校の重複障害のある子供の在籍する特別支援学級を担当する教員は、重複障害教育の専門性に基づいた指導が十分にできていると感じていますか。校長先生の印象をお答えください。

- ① できている。
- ② どちらかというとできている。
- ③ どちらとも言えない。
- ④ どちらかというとできていない。
- ⑤ できていない。

V 重複障害学級に在籍する子供の教育の充実のための学校体制について

1. 特別支援学校との連携について

(1) 貴校は、特別支援学校のセンター的機能を活用していますか。

- ① はい
- ② いいえ

(2) (1) で①を選んだ方にお聞きします。どのような特別支援学校と連携していますか。
(複数回答可)

- ① 視覚障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校
- ② 聴覚障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校
- ③ 知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校
- ④ 肢体不自由者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校
- ⑤ 病弱者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校
- ⑥ その他 ()

(3) (1) で①を選んだ方にお聞きします。連携の内容をお答えください。(複数回答可)

- ① 現場の教員への支援
- ② 特別支援教育等に関する相談・情報提供
- ③ 障害のある児童生徒等への直接的な指導・支援
- ④ 福祉、医療、労働関係機関等との連絡・調整
- ⑤ 現場の教員に対する研修の協力
- ⑥ 教材等の提供
- ⑦ その他 ()

(4) 貴校の特別支援学級では、複数の障害種に対応した教育を提供する仕組みが十分にできていると感じますか。校長先生の印象をお答えください。

- ① できている。
- ② どちらかというときできている。
- ③ どちらとも言えない。
- ④ どちらかというときできていない。
- ⑤ できていない。

2. 多職種連携について

(1) 貴校では、どのような職種の方がかかわっていますか。かかわっている職種を全て選んでください。(複数回答可) また、「⑬その他」を選んだ方は、職名をご記入ください。

- ① 理学療法士 (P T) ② 作業療法士 (O T) ③ 言語療法士 (S T)
- ④ 視能訓練士 ⑤ 聴能訓練士 ⑥ 看護師 ⑦ 医師
- ⑧ スクールカウンセラー (S C) ⑨ スクールソーシャルワーカー (S S W)
- ⑩ 介護福祉士 ⑪ 支援員 ⑫ 介助員
- ⑬ その他 ()

- ① できている。
- ② どちらかというときできている。
- ③ どちらも言えない。
- ④ どちらかというときできていない。
- ⑤ できていない。

(1) どのような関係機関と連携・協力していますか。(複数回答可)

- (2) 関係機関とは、どのような連携をしていますか。(複数回答可)

- (3) 特別支援学級に在籍している重複障害のある子供の保護者は、放課後等デイサービスを利用していますか。

- ① している。
② していない。

(4) (3) で①と答えた方にお聞きします。放課後等デイサービスとの連携の中で課題となっていることは何ですか（複数回答可）

- ① 特に課題はない
- ② 学校教育への理解
- ③ 放課後等デイサービスの活動内容
- ④ 重複障害のある子供についての情報共有
- ⑤ 情報共有等の時間の確保
- ⑥ 放課後等デイサービスの担当者の知識や経験
- ⑦ 保護者と放課後等デイサービスと学校の三者間の連絡調整
- ⑧ その他（

4. 医療的ケアについて

(1) 医療的ケアを行っている特別支援学級に在籍している重複障害のある子供はいますか。

- ① いる。
② いない。

(2) (1) で①と答えた方にお聞きます。医療的ケアで課題となっていることは何ですか
(複数回答可)

- ① 特に課題はない
- ② 授業中の医療的ケアの対応（教師と看護師との協働）
- ③ 看護師との情報交換
- ④ 子供の行事等への参加についての対応
- ⑤ 保護者との連携
- ⑥ 医療的ケアを行う教員の知識と経験
- ⑦ 看護師の確保
- ⑧ その他（ ）

VI 保護者等との連携

1. 保護者との連携

(1) 特別支援学級に在籍している重複障害のある子供の保護者との連携の中で課題となっていることは何ですか。(複数回答可)

- ① 特に課題はない
- ② 子供の学びについての保護者との共通理解
- ③ 学校教育への理解
- ④ 保護者との話し合いの時間の確保
- ⑤ その他 ()

(2) 特別支援学級に在籍している重複障害のある子供の保護者との連携の中で工夫していることは何ですか。(複数回答可)

- ① 保護者の話をよく聞き、説明を丁寧に行うことで保護者との共通理解を図っている。
- ② 子供の学び等について、記録を共有している。
- ③ 様々な職種の方を含めて、保護者と協働でかかわるようにしている。
- ④ 保護者や地域住民が学校運営に参画する学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）において、協働で課題解決等を進めている。
- ⑤ その他 ()

(3) 貴校の特別支援学級の担任は、特別支援学級に在籍している重複障害のある子供の保護者と教育の専門性にもとづいて話が十分にできていると感じていますか。校長先生の印象をお答えください。

- ① できている。
- ② どちらかというときている。
- ③ どちらとも言えない。
- ④ どちらかというときていない。
- ⑤ できていない。

2. 特別支援学級に在籍している重複障害のある子供の保護者が小・中学校等の特別支援学級を選択した理由は何ですか。(複数回答可)

- ① 特別支援学級での教育内容等が充実しており、子供に適しているため。
- ② 通常の学級との交流及び共同学習の充実した取組を求めたため。
- ③ 地域の子供同士の活動を継続するため。
- ④ 特別支援学校を選択すると居住地から離れてしまうため。
- ⑤ 特別支援学校を選択すると通学時間が長くなるため。
- ⑥ 特別支援学校の始業時刻や終業時刻と保護者の仕事等の時間があわないため。
- ⑦ その他 ()

VII 重複障害のある子供の教育の充実にに向けた新学習指導要領等への対応

1. 特別支援学級に在籍している重複障害のある子供の教育の充実に向けて、貴校では、新学習指導要領等に関連したキーワードを意識した取組を行なっていますか。校内研究や学校の重点事項として取り組んでいる項目を全てあげてください。(複数回答可)

- ① 社会に開かれた教育課程
- ② カリキュラム・マネジメント
- ③ 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善）
- ④ 「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）
- ⑤ 「何を学ぶか」（教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）
- ⑥ 「どのように学ぶか」（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）
- ⑦ 「子供一人一人の発達をどのように支援するか」（子供の発達を踏まえた指導）
- ⑧ 「何が身に付いたか」（学習評価の充実）
- ⑨ 「実施するために何が必要か」（学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策）
- ⑩ インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進
- ⑪ 子供の障害の重度・重複化、多様化への対応
- ⑫ 社会の急速な変化と卒業後を見据えた教育課程の在り方
- ⑬ その他（ ）

2. 特別支援学級に在籍している重複障害のある子供の教育の充実に向けて、貴校で、新学習指導要領等に関連したキーワードを意識して中心的に取り組んでいることについて自由にご記入ください。校内研究のテーマ等もご記入ください。

()

VIII 貴校の特別支援学級に在籍している重複障害のある子供の指導や支援での課題やそれに対して工夫されていることについて自由にご記入ください。

()

質問は以上です。

ご協力、誠にありがとうございました。